



津波被害から身を守れ

津波デジタルライブラリ



野外調査支援システムを使った現地調査のテスト(桐生キャンパスにて)

情報工学科 知識情報工学第2研究室

私たちの研究室では、デジタルデータをコン「データベース」に関する研究を行っています。管理し、必要なデータをデータベースとはデータの検索できるようにしたも

〈私たちが執筆しました〉

金森吉成 教授

【プロフィール】 石川県出身。東北大学大学院博士課程修了、工学博士。東北大電気通信研究所助手、同助教授、仙台電波高専教授を経て、1990年から現職。オブジェクト指向データベース、マルチメディアデータベースに関する研究に従事。

今井さやか 助手

【プロフィール】 東京都出身。横浜国立大学大学院博士課程修了、工学博士。横浜国大エレクトロニクス・システム・ラボを経て2000年10月から現職。データベースに関する研究に従事。



ネットワークを使って屋外にいる現地調査員と通信をしているところ

例えば、銀行の預金管理システムや鉄道・航空の予約システムなど身近なところで利用されています。私たちはこのデータベースをさらに進化させて、私たちの生活よ

日本書紀の時代から現在まで そのすべてをデータベースに

り役に立つデータベースの開発を目指しています。研究室には金森吉成教授、有次正義助教授、今井さやか助手、戸田和子技官、大学院生16人、4年生

資料をデジタル化 誰でも閲覧可能に

日本は本当に災害の多い国で、昔から地震、台風、洪水、津波、高潮などの災害に繰り返し襲われており、大変な被害を受けてきました。例えば津波の被害の様子は古く日本書紀などにも記述があるそうです。

調査員と研究者を ネットでつないで

津波デジタルライブラリを開発するきっかけとなったのは、防災関係の研究をしている先生からのお話でした。災害を津波に限ってもたくさんのお話がありました。また、津波情報を現地に行きついで収集するため、GIS(地理情報システム)とGPS(位置測定システム)をノートパソコンに搭載して、現地を持ち込んで直接データベースに地図と津波情報を入力できる「野外調査支援システム」を開発しました。このシステムは津波研究者と現地調査員をネットワークでつないで通信も行うことができます。



これが「津波デジタルライブラリ」のトップページです

9人、研究生1人が在籍しています。このうち10人が中国、モンゴル、チュニジア、マレーシアなどの留学生で、英語も必要です。つまり、「津波」に関するありとあらゆる情報をまとめて、必要な情報を取り出せるようなデータベースです。

私たちは古文書、災害記録、新聞記事すべてをデジタル化してコンピュータの中のデータベースに集め、津波研究者が現地に行きついで調査してきた被災状況をその地図などもすべてデジタルデータとしてデジタルライブラリに取り込んで整理しました。そしてパソコンからインターネットを通してWebページとして誰でも見られるように公開しています。

また、津波情報を現地に行きついで収集するため、GIS(地理情報システム)とGPS(位置測定システム)をノートパソコンに搭載して、現地を持ち込んで直接データベースに地図と津波情報を入力できる「野外調査支援システム」を開発しました。このシステムは津波研究者と現地調査員をネットワークでつないで通信も行うことができます。

津波デジタルライブラリは <http://tsunami.dbms.cs.gunma-u.ac.jp/> から見る(ウインドウを開く)ことができます。貴重な古文書なども公開しているのでも一度ご覧になってください。